

甲斐市立竜王西小学校 自己評価書

令和8年2月20日（金）作成

校長 「内藤 賢」 記述者 職名（教頭）「小林 恵子」

学校教育目標「自ら学び 自ら考え 進んで行動する 心豊かでたくましい児童の育成」

学校経営方針

「21世紀を担う人間性豊かで、社会の変化に対応できる生きる力の育成」をめざし、学校教育の充実に努める。

- (1) 子どもも教師も幸せになれる「行きたい学校づくりを推進する。
- (2) 自主性・手応え(自己有用感)・関係性を大切に、主体的な教育活動を推進する。
- (3) 家庭・地域・関係機関と協働し、「行かせたい」「行ってみたい」学校づくりに努める。
- (4) 変化と教育課題に対応できる力を備えた教職員を育成する。

1 全体評価

○教職員、児童、保護者それぞれの学校評価アンケート結果を総合的に見ると、本校の教育活動および学校運営は、概ね良好に進められていると評価できる。三者共通して、学校が安心して学び、生活できる場として機能していることが認識されており、学校全体として安定した基盤の上に教育活動が展開されていることがうかがえる。

○教職員の自己評価からは、学校経営や学校運営の方針が一定程度共有され、組織的な取組が進められていることが明らかとなった。また、日々の教育活動について、改善を意識しながら取り組もうとする姿勢が見られ、学校としての継続的な成長が期待される。

○児童の評価からは、学校生活に対する安心感や満足感が得られており、学習や行事、人間関係に前向きに取り組んでいる様子が見られる。これは、教職員の指導や支援が児童の実感として伝わっていることを示しており、本校の教育活動の成果の一つであると捉えることができる。

○保護者の評価からは、学校への信頼感や、児童の安全・生活面に対する取組への一定の評価が読み取れる。一方で、学校の取組や教育の成果について、より分かりやすい情報発信を求める声も見られ、家庭との連携を一層深めていく必要性が示唆された。

2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）

I 学校教育目標に関して

達成状況

本校の教職員自己評価アンケート結果から、肯定的回答は全体の100%を占めており、今年度の学校教育目標および重点目標に基づく取組は、概ね計画どおり進められていると評価でき、学校経営に対する一定の理解と実践が進んでいると考えられる。学校経営方針や学校教育目標に基づいた教育活動が行われていると受け止められており、学校としての方向性は概ね共有されている。PDCAサイクルを意識した教育活動が一定程度定着してきていると評価できる。一方で、評価や改善の段階については、教職員間での捉え方に差が見られるため、具体的な取組事例を共有することが重要である。

- 改善策
- ・学校経営方針や目標を定期的に共有する場を設け、全教職員の共通理解をさらに深める。
 - ・教育活動計画の振り返りを定期的に行い、成果と課題を次の改善に生かす仕組みを整える
 - ・PDCAサイクルを可視化し、振り返りの成果を具体的な改善行動に結び付ける。
 - ・PDCAサイクルの各段階を意識した協議や研修を行い、組織的な改善力の向上を図る。
 - ・働きやすさや健康管理について、教職員の声を反映した環境整備を継続する。
 - ・教職員の健康管理や業務負担の軽減に配慮し、働きやすい学校づくりを進める。

II 学校経営・組織について

達成状況

本校の教職員自己評価アンケート結果から、肯定的回答は全体の 100%を占めており、今年度の学校教育目標および重点目標に基づく取組は、概ね計画どおり進められていると評価でき、学校経営に対する一定の理解と実践が進んでいると考えられる。学校経営方針や学校教育目標に基づいた教育活動が行われていると受け止められており、学校としての方向性は概ね共有されている。PDCA サイクルを意識した教育活動が一定程度定着してきていると評価できる。一方で、評価や改善の段階については、教職員間での捉え方に差が見られるため、具体的な取組事例を共有することが重要である。教職員の勤務環境や健康管理への配慮については、一定の評価が得られている。しかし、働き方や業務負担に関する課題もあり、より働きやすい職場環境づくりを継続して進めていく必要がある。

学校経営および学校運営に関する項目では、教職員の多くが肯定的に捉えており、学校全体として安定した運営が図られてきたことがうかがえる。日常の学校運営において、教職員が役割を意識しながら業務に取り組んでいる様子が見られる。業務改善の項目については、肯定評価が 97%となっており、職員の意識改革が進み、校内の連携や協力体制については、おおむね良好であると受け止められている。学校運営全体としては、一定の安定感をもって進められていると評価できる。教職員の意見が学校運営に反映されていると感じている回答が多く見られるが、参画意識を高めるためには、意見を安心して発信できる環境づくりが重要である。

改善策

- ・ 学校経営方針や目標を定期的に共有する場を設け、全教職員の共通理解をさらに深める。
- ・ 教育活動計画の振り返りを定期的に行い、成果と課題を次の改善に生かす仕組みを整える
- ・ PDCA サイクルを可視化し、振り返りの成果を具体的な改善行動に結び付ける。
- ・ PDCA サイクルの各段階を意識した協議や研修を行い、組織的な改善力の向上を図る。
- ・ 働きやすさや健康管理について、教職員の声を反映した環境整備を継続する。
- ・ 教職員の健康管理や業務負担の軽減に配慮し、働きやすい学校づくりを進める。
- ・ 学校運営に関する方針や意思決定の背景を、教職員に丁寧に説明し、共通理解を図る
- ・ 校務分掌や業務内容を定期的に見直し、業務負担の偏りを軽減するとともに、効率化を進める。
- ・ 会議や打合せの目的を明確にし、ICT の活用などにより、時間を有効に使える運営体制を整える。
- ・ 教職員一人一人の意見や提案を学校運営に生かす仕組みを整え、主体的な参画意識の向上を図る。
- ・ 今後は、これまでの取組を継続しつつ、時代や学校の実態に応じた柔軟な運営が求められる。

Ⅲ 学習指導について	
達成状況	<p>学習指導においては、日々の授業改善や指導方法の工夫が積み重ねられ、一定の成果が見られる。学習指導に関して、学習指導要領や学校の方針を踏まえた授業が行われていると受け止められている。</p> <p>基礎的・基本的な学力の定着を意識した指導が行われているとの回答が多く、日々の授業改善への意識の高さがうかがえる。</p> <p>児童一人一人の理解度やつまずきに応じた指導を心がけている様子が見られるが、個別対応や支援の時間確保については課題もあり、指導体制の工夫が求められる。</p> <p>ICTや教材を活用した授業づくりが進められており、学習意欲の向上につながっていると感じている教職員が多い。</p> <p>一方で、活用方法についてはさらなる研修や情報共有の必要性が示唆される。「ICTを効果的に活用した授業を行っている。」は肯定評価が79.2%になっており、数値的には良好と言えない。また昨年度は日常的に使えることに一定の評価が得られていた。今年度評価が下がった要因の一つに、教職員がもっと効果的に使いたい、児童の学力を向上させるにはどのように活用したらよいかといった質にこだわった活用にシフトしてきたからと考えられる。</p> <p>学習指導全体としては、計画的かつ継続的に改善が図られていると評価できる。また、学習全般で見ると教職員、児童、保護者との回答に大きな開きはなく、達成状況は良好であると言える。しかしながら、児童アンケートの「授業(勉強)でわからないことがあったら先生に聞いていますか。」「人前でしっかりと自分の意見を言うことができますか。」に関しては、肯定評価が75%となっており、改善に向けての継続的な取組が必要である。</p>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の学習状況や課題について、学年・教科を越えて共有し、指導方法の工夫や改善につなげる。 ・ 授業の振り返りや成果の検証を行い、PDCAサイクルを意識した学習指導の改善を継続する。 ・ 個に応じた指導や支援が行えるよう、指導体制や時間の確保について工夫を進める。 ・ ICTや教材の効果的な活用について研修や実践交流を行い、教職員全体の指導力向上を図る。
Ⅳ 生徒指導について	
達成状況	<p>生徒指導についても、基本的な生活習慣の定着や安心して学校生活を送るための指導が継続的に行われており、着実な取組が進められてきたと考えられる。生徒指導に関する基本方針が教職員間で共有され、日常的な指導に生かされている様子がうかがえる。問題行動の未然防止に向けた取組が一定程度進められていると評価できる。保護者や関係機関と連携した生徒指導が行われているとの認識が見られる。</p> <p>生徒指導全体としては、学校全体で対応しようとする姿勢が定着しつつあると考えられる。また、児童アンケートの「学校の決まりや約束ごとを守っていますか。」は、95%の肯定評価、保護者アンケートの「学校は子ども達の間違った行動などに対して、指導していると思う。」が95%の肯定評価になっていることから、達成状況は良好と言える。</p> <p>しかしながら、児童アンケート「困ったことがあったら相談できる先生がいますか。」の肯定評価は73%、教職員自己評価「あなたは、児童理解のためにコミュニケーションを図っている。(対：児童)」の肯定評価は97%で、大きな開きがある。今後は、日頃からの児童理解をさらに深め、児童とのコミュニケーションを図り、児童の実態や心情に配慮した指導を心がけていく必要がある。</p>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒指導の基本方針や指導の在り方について、教職員間で継続的に確認し共通理解を深める。 ・ 個別の指導事案については、情報を共有し、組織として対応できる体制を整える。 ・ 傾聴の姿勢で児童の話を聞き、児童理解を深めるための日常的な観察や記録を充実させ、問題行動の未然防止と早期対応につなげる。 ・ 保護者や関係機関との連携をさらに強化し、情報共有の方法や役割分担を明確にする。

V 地域との連携について	
達成状況	<p>地域連携に関する取組については、計画された活動が概ね実施されており、本校ならではの教育活動として一定の達成が認められる。特に、地域との協働や特色ある教育活動を通して、児童生徒の学びや成長につなげようとする取組が継続されてきた点や外部講師を活用した教育活動が進められている点が評価できる。また、地域や保護者との連携を意識した教育活動が行われているとの認識が見られる。</p> <p>保護者アンケートからは「学校日よりホームページなどから教育活動の内容を知ることができる」「学校は情報公開に力を入れていると思う」「学校は保護者・地域住民からの声に耳を傾けていると思う。」の項目は全て高評価であり、保護者が好意的に捉えていると見ることができる。学校からの情報発信については、一定の評価が得られているものの、地域への周知の仕方や頻度については検討を重ね、より分かりやすく、継続的な情報発信の工夫が必要である。</p>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域連携の目的やねらいを教職員間で共有し、教育活動との関連を明確にする。 ・ 地域人材や関係機関との連携について、計画的かつ継続的に活用できる体制を整える。 ・ 学校から地域への情報発信の方法や内容を工夫し、活動の様子や成果が伝わるようにする。 ・ 地域や保護者と意見交換する機会を設け、相互理解を深めながら協働関係を築く。 ・ 下校時刻表送付に学校だよりを入れる。
VI 学校の特色に関して	
達成状況	<p>本校ならではの教育活動や取組について、一定の理解と評価が得られている様子がうかがえる。一方で、学校の特色がどのような点にあるのかについて、教職員間での認識に差が見られる可能性があり、特色をより明確に共有していく必要がある。</p> <p>自己評価は2項目とも肯定評価が高く、「あなたは児童が進んで挨拶をするよう指導に努めている」の項目は97.1%であった。保護者アンケート「ご家庭では、お子さんに進んで挨拶するように言っていますか。」が91%、「ご家庭では家族でお互いに挨拶をしていますか。」が96%、「学校は子供たちに地域以外でも挨拶をするよう指導していると思う」が84%になっている。児童アンケートの「誰とでも挨拶をしていますか。」は87%であった。挨拶に関する項目は、三者とも肯定評価が高く良好であると捉えられるが、学校外でも場に応じた挨拶ができるような取組は継続していく必要がある。学校の特色を生かした教育活動が、児童の成長や学びにつながっていると感じている回答が見られる。今後は、その成果を振り返り、学校の強みとしてさらに発信していくことが求められる。</p> <p>創甲斐教育の基本理念と基本目標を踏まえた教育活動が、日常の教育実践の中で意識され、児童の主体性や協働性を育もうとする取組が進められていることが伺える。「協働的な学びを取り入れた授業や児童がコミュニケーション力を生かし学び合えるような指導に努めている。」の項目については今年度校内研究で取り組んでいる内容で、肯定評価が93%になっており、児童アンケート「友達とコミュニケーションを取りながら活動することは楽しいですか」も95%となっていることから、コミュニケーション力が養われてきていると推測される。</p> <p>「児童が積極的に読書活動に取り組むよう、指導に努めていますか。」の肯定評価は、教職員と保護者との間に大きな開きがある。家庭での読書時間に関するアンケート結果からも、家読などの取組を強化し家庭での読書時間も増えていくような取組を継続させる。</p>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本校の特色となる教育活動や取組について、目的やねらいを整理し、教職員間で共通理解を図る。 ・ 学校の特色が児童の成長にどのようにつながっているかを検証し、教育活動の改善に生かす。 ・ 学校の特色や成果を、学校だよりやホームページ等を通して積極的に発信する。 ・ 地域や保護者と特色ある取組を共有し、理解と協力を得ながら継続的な発展を目指す。 ・ 創甲斐教育の理念や目標について、研修や協議の場を通して再確認し、教職員間の共通理解を深める。 ・ 創甲斐教育の視点を生かした授業や実践事例を校内で共有し、指導の質の向上を図る。

3 まとめ

〈成 果〉

- ・本校の教育活動は、教職員の組織的な取組を基盤に、児童の安心した学校生活と保護者からの信頼に支えられながら、概ね目標に沿って進められていると総合的に評価できる。家庭・地域とのつながりを確かめ合いながら、子供たちの主体性を育むことができる学校づくりに邁進したい。

〈課 題〉

- ・今回の教職員自己評価や児童・保護者アンケートで浮かび上がった課題については、今後も三者の声を丁寧に受け止め、成果を生かしつつ課題を共有し、学校・家庭・地域が連携したより質の高い教育活動の充実を図っていくことで改善していきたいと考えている。